

*** 11月に八代海でユーカンピアが異常増殖 *** 養殖ノリに色落ち被害が発生

浅海干潟研究部 梅本敬人

海を漂うプランクトンには、海の生物生産の基礎となる「珪藻」と呼ばれるグループがあります。海の豊かさを支える珪藻ですが、異常に増殖すると（極端には赤潮となり）水産被害を引き起こすものもいます。

特に、ユーカンピア (*Eucampia zodiacus*) は、ノリ養殖漁期の後半である1月から3月にかけて大量発生し、海水に溶けている栄養分（窒素、リン）を消費します。ノリの成育に必要な栄養が不足すると、ノリの色調は低化（色落ち）して商品価値が無くなるので瀬戸内海では大問題となっています。

これまで、八代海において、ユーカンピアは毎年1月から3月にかけて発生する傾向にありましたが、今回は例年になく早く、11月に大量発生しました。11月は、ノリの芽を育てる育苗期から初摘みの時期に当たり、ノリ養殖で重要な時期です。この時期に色落ちしてしまったため、ノリ漁師の皆さんが楽しみにしている第1回の入札会にほとんど出品することができなかつたばかりでなく、漁期の途中から使用するノリ芽が付いた張り替え用の網を確保することができなかつたなど大変な漁業被害となりました。

今回、例年より早い11月にユーカンピアが大量発生したのは、以下のことによると思われました。

例年11月に主体となる小型珪藻が、少雨による低い栄養塩と時化（しけ）によって増殖が抑制されたこと

11月上旬に気温の急激な降下により海水の鉛直混合が促進され、通常底層にあるユーカンピアの日光を受ける機会が増加したこと

その後、水温の再上昇でユーカンピアの増殖に適した条件になったこと

海況などの増殖条件が整えばこれからも、例年より早い11月にユーカンピアが大量発生することが予想されますが、残念ながらユーカンピアを除去することは今のところ難しいのが現状です。水産研究センターではこれからも、状況に応じて臨時調査を交えながら海域の栄養塩やプランクトンの発生状況を調査し、速やかに漁業者の皆さんにお届けして行きますので、漁業生産活動の参考とされることを期待します。

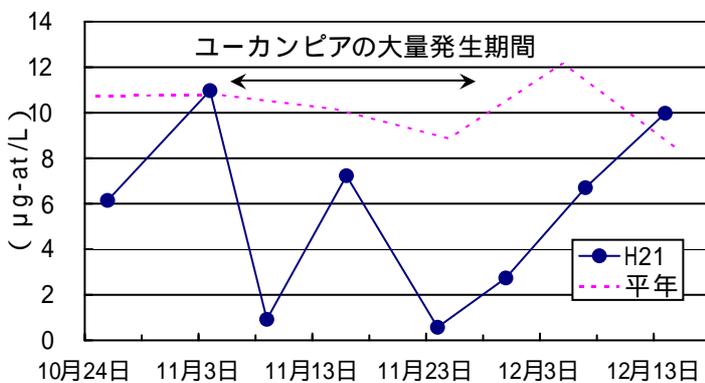


図1 八代海における溶存態無機窒素濃度の推移
(平成21年)

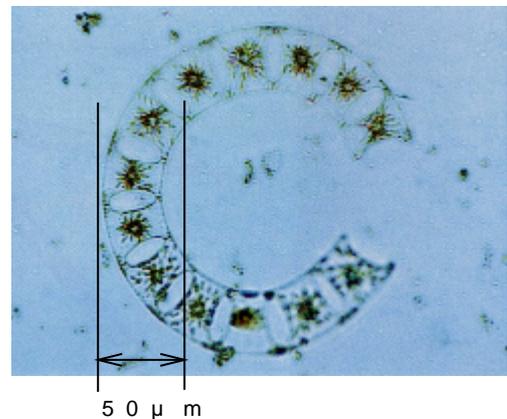


図2 ユーカンピア